

1 研究主題

「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら判断して行動し、

よりよい社会や人生を切り拓いていく児童の育成を目指して」

～異年齢集団による学習を通して～

教科・領域：生活科・総合的な学習の時間

2 主題設定の理由

本校の児童は、穏やかで優しく、指示やルールをよく守り、与えられた課題に対して一生懸命取り組もうとする児童が多い。一方で、自ら問いをたてたり、課題を見つたりする力が弱く、日常生活や授業の中でも、主体的・対話的に学ぶ姿がしっかりできていないと言いき難い状況である。また、児童数の減少に伴いクラス替えが行われることが無くなりつつある中、人間関係の固定化が起こり、今後いろいろな人と関わる機会も減っていくことが考えられる。学習と人権教育の両面から子どもたちの課題を捉えていくことが、今後益々大切になってくるだろう。

本校は2020年度より、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく児童の育成を目指して」と研究主題を設定し、異年齢集団による学びを通して校内研究を推進してきた。2019年度全国学力・学習状況調査時の児童質問紙から本校の課題を見ると、まず、学習に対して意欲的に取り組めていないということが分かる。『国語の学習内容はよく分かりますか』(全国平均より+5.6ポイント)に対して、『国語の勉強は好きですか』(全国平均より-19.0ポイント)、『算数の学習内容はよく分かりますか』(全国平均より-2.5ポイント)『算数の勉強は好きですか』(全国平均より-16.3ポイント)となっている。意欲が低いということは、主体的に学ぶための素地が十分であると言いき難い状況だといえるだろう。また、2020年度の学校アンケートを見ても、『学校の授業は分かる』(肯定的意見92.4%)とあるものの、『授業で、自分で考えることが楽しい』(肯定的意見76.8%)『授業中、進んで発表している』(肯定的意見69.0%)に留まる。つまり現在の本校の児童は、主体的に学んでいるのではなく、受動的に学習に対して取り組んでいると考えられていた。

本校では1～6年生で形成した異学年集団(以下たてわり班)において、行事を行ったりレクリエーション(れいせいっこタイム)を行ったりしている。これら取組は、毎年、規模や取組方には多少の変化はありながらも、本校に脈々と受け継がれてきているものである。このたてわり班での活動を見ると、6年生の責任感は強くなり、自分の経

験や知識を基に下級生と接し、下級生はそんな6年生から多くのことを学ぶ姿が見られる。また、学年を超えた人間関係が形成されていき、その中では上記のような課題解決への糸口が見られた。そのため、このたてわり班活動を学習場面に広げることで研究主題に迫ることができるのではないかと考え、研究を進めてきた。

2020年度からは、れいせいっこタイムというたてわり班活動に加え、サーチ学習…子どもたちが自ら課題を立てて行う探究学習(低・高に分かれて実施)学びっこタイム…朝のモジュールでの基礎・基本の学習(主に高学年)の二つの取組を始めた。この三つの取組を柱として、本研究の土台作りを2020年度は行った。

2020年度に取り組んだサーチ学習後の高学年の児童アンケートでは、「学年を超えて協力することはできましたか」…肯定的意見95%、「自分の意見を伝えることができましたか」…肯定的意見92%、「学級での学習と比べて積極的に参加することができましたか」…肯定的意見89%と、前向きに学習に取り組む児童の姿が見られた。2021年度のアンケート結果では、上記の項目に加え「調べる力がつくと思いますか」…95.2%、「情報をまとめる力がつくと思いますか」…95.2%、「発表する力がつくと思いますか」…94.2%とその他の項目も高い結果が出ており、サーチ学習の効果を児童も実感しつつある。

2021年度では低学年においてもサーチ学習を実施してきた。初めて取り組んだが、「学年を超えて協力することはできましたか」…肯定的意見 91.4%、「自分の意見を伝えることができましたか」…肯定的意見 94.7%などの項目を始め、低学年においても前向きにサーチ学習に取り組む姿が見られた。

このように、新型コロナウイルスの影響により十分にたてわり班による学習や活動へ取り組めなかった部分はあるが一定の手ごたえを得ることができた。また、日々の学校生活や授業の中で「このような事を学んでみたい」「問題を自分たちで解決していきたい」など「自ら課題を見つけ」、「自ら判断し行動する」姿が見られてきており、異年齢学習や活動が活きているように感じる場面も増えてきている。また、2021年度のサーチ学習では、課題解決に向けて必要な情報をグループや個人で集める姿がたくさん見られ、「自ら学ぶ」力も着実についてきている。研究初年度の児童質問紙の数値との比較からも『国語の勉強は好きですか』(全国平均より-19.0ポイント→+0.6ポイント)、『算数の勉強は好きですか』(全国平均より-16.3ポイント→+6.5ポイント)など、結果が表れ始めていると言えるだろう。

2022年度は、2021年度の課題や成果をいかして、低学年、高学年ともに年間を通してサーチ学習に取り組むことができた。サーチ学習のアンケートからも肯定的な意見が多かった。子どもたちの様子をもみても、異学年のメンバーと協力して意欲的に取り組んでいる。ただ普段の授業や生活に役立てることはまだまだできていないと考える。

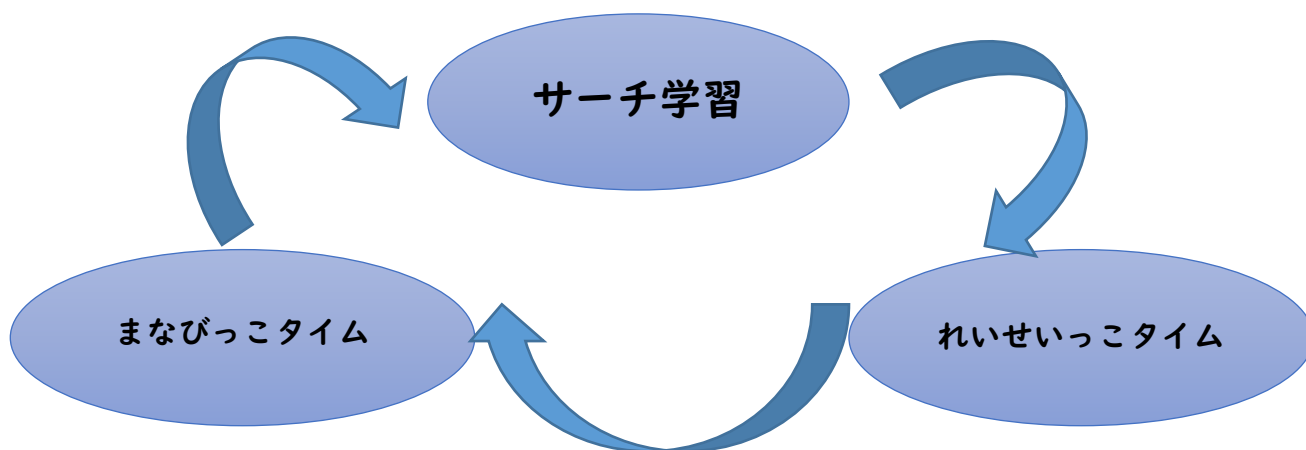
今年度は、現在の研究主題になって四年次となる。異年齢集団を通して様々な活

動や学習に取り組んできたが、それらの更なる推進を目指すとともに、学校生活や各学級における学習の中で、どのように3年間の取り組みが活かしているか、またたてわり班活動・学習のさらなる充実に向けて研修を進めていきたい。

3 研究仮説

たてわり班で活動するだけでなく、たてわり班で学習も行うことによって、本校の学校目標である「確かな学力と豊かな人間性をもち、たくましく生きる鈴西っ子の育成」の実現を図れるだろう。また、そこで身に着けた力は、学級における授業や人間関係の醸成、落ち着いた学校生活に結び付き、延いては子どもたちの自己実現に向けて発揮されるだろう。

4 研究の柱



サーチ学習…児童が自ら課題を設定して学びを深める探求学習

(低・高に分かれて実施)

れいせいっこタイム…1～6年生のたてわり班で遊ぶ活動(全校で実施)

学びっこタイム…朝のモジュールでの基礎・基本の学習(高学年)

読み聞かせや思考スキルなどのたてわり班活動(低学年)

サーチ学習

サーチ学習では、あるテーマに対して、4～6年のたてわり班ごとに問いや課題を設定して学習を行っていく。カリキュラムマネジメントを行い、総合的な学習の時間を各学期に集中して取り組む期間を設けて実施していくこととする。

サーチ学習を進めるにあたり、以下のような学習の流れで行っていくこととする

る。

サーチ学習の流れ	留意点
動機付け	子どもの探究心が高まるように刺激する。地域の特性や文化を取り上げ、地域からゲストティーチャーを招いて行っていく。
問いを生み出す・計画を立てる	マッピングなどの考える技法を用いて行う。様々な問いを出し合う中で、自分たちのグループで学習していくテーマを決めていく。そして学習していく内容について、分担を決める。発達段階や得手不得手などに応じて分担が決まるようにグループの中で話し合う。
探究活動を行う	グループで話し合いながら学ぶ時間を大切にする。また、静かに一人で学ぶ(脳がアクティブに深い思考をしている)ことも大切にしていく。
発表をする	それぞれが探究活動をしたことをまとめ、発表を行う。班ごとに発表を行うこともあれば、学校全体で発表することもありうる。

れいせいっこタイム

れいせいっこタイムは、1～6年生のたてわり班で遊ぶ時間である。本校において伝統的に受け継がれてきている活動である。このたてわり班で、運動会や森のまつり、6年生を送る会などの行事にも取り組んでいる。

遊びについては、学習よりも活動に近いものになるが、同じ班の仲間を理解する大切な時間となる。他学年や様々な友達と遊ぶことで児童間の理解を深めたり、互いに配慮し合う大切さを学んだりできるであろう。学びっこタイムやサーチ学習での学び合いにもつながってくる活動である。月に1回程度行っていく。

まなびっこタイム

与えられた課題に対して自分で計画を立ててモジュール学習をすすめていく時間が「まなびっこタイム」である。自分で学習の計画を立てることで、『自ら学ぶ力』が鍛えられるとともに、自分の力を客観的に捉える力が高められると考える。

4～6年においては国語科の中で系統だった学習ができるものを取り入れたい。例えば、季節の言葉や短歌・俳句、漢字の学習などを取り上げお互いに問題を作って出し合ったり、作品を批評しあったりしていきたい。上級生から教えてもらったり、下級生からヒントをもらったりするなど、関わり合いの中から学習をさらに進める時間とし、自然に子どもたち同士で学びに向かう姿を期待できる。

1～3年生においてはれいせいっこタイムと同様、少グループで簡単なゲームを

したり、お互いに読み聞かせをしたりして、人間関係を築く土台として期待したい。

<2023年度の研究の柱>

(1)高学年サーチ学習のさらなる充実

(2)まなびっこタイム・たてわり班学習・活動のさらなる充実

5 研究の柱に対する具体的な取組

(1)高学年サーチ学習のさらなる充実

2021年度は高学年(4~6年生)において、地域の産業である植木に関して、年間を通してサーチ学習を実施した。植木組合の方々に協力をいただき、連絡を密に取りながら行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、計画通りに進まなかった部分も多々あったが、年間を通してサーチ学習を行った。

2022年度は、地域の産業であるお茶に関して2021年度と同様にサーチ学習を実施した。鈴鹿の七樹の方々に協力していただき、工場見学をしたり、オンラインで質問したりする活動を取り入れながら進めることができた。また、お茶インストラクターの方をゲストティーチャーにお招きし、おいしいお茶の入れ方を体験することができた。

2023年度は植木、お茶に続く地域に関係する取り組みをさらに充実したものにしていけるように計画をしていく。また、SDGsと関連付けた題材やテーマを選ぶとともに、児童が主体的に学べる環境をつくり、研究主題に迫っていくこととする。

(2)まなびっこタイム・たてわり班学習・活動のさらなる充実

2021年度は低学年部(1~3年生)において、年間を通して初めてサーチ学習を実施した。生活科と総合的な学習の時間という教科の違いの中で、目標や評価を設定を適切に行うことの難しさ、また、高学年部に比べ発達の差が大きいことから2022年度は、段階的にサーチ学習を行った。まず1学期にまなびっこタイムを実施し、絵本の読み聞かせや音読発表会など、日常的に交流する機会を設け、人間関係の構築を図っていった。2学期では、サーチ学習を数時間行った。1・2年生は生活科、3年生は総合的な時間でそれぞれ学習をすすめる、その学習の中で交わる部分をサーチ学習として行うようにした。そして3学期では、それらの経験を基にサーチ学習を第1時間から低学年部と取り組んでいった。

2023年度は前年度までの成果や課題を引き継ぎながらサーチ学習を行う。

その中で、縦割りでかかわる時間を増やしていく。例えば、そうじをたてわり班で行う。まなびっこタイムなどの時間を活用した関わりをさらに考えていく。また、学校の特徴的な場所(鈴西の森やスクールパークなど)を生かした活動を考えていく。

6 授業に関わる研究方法

(1) 授業研究

サーチ学習の研究授業を1回、たてわり班学習で学んだことが日常の授業にどのような影響を与えるか検証していくために、教科に関わる研究授業を高学年、低学年において1回ずつ行う。

* 指導主事要請を行う。

* 事前検討会・事後研究会(ワークショップ形式)をもち、課題を共有し、次回につなげていく。

(2) 児童の実態調査

学期ごとに研究に関わるアンケートを行っていく。

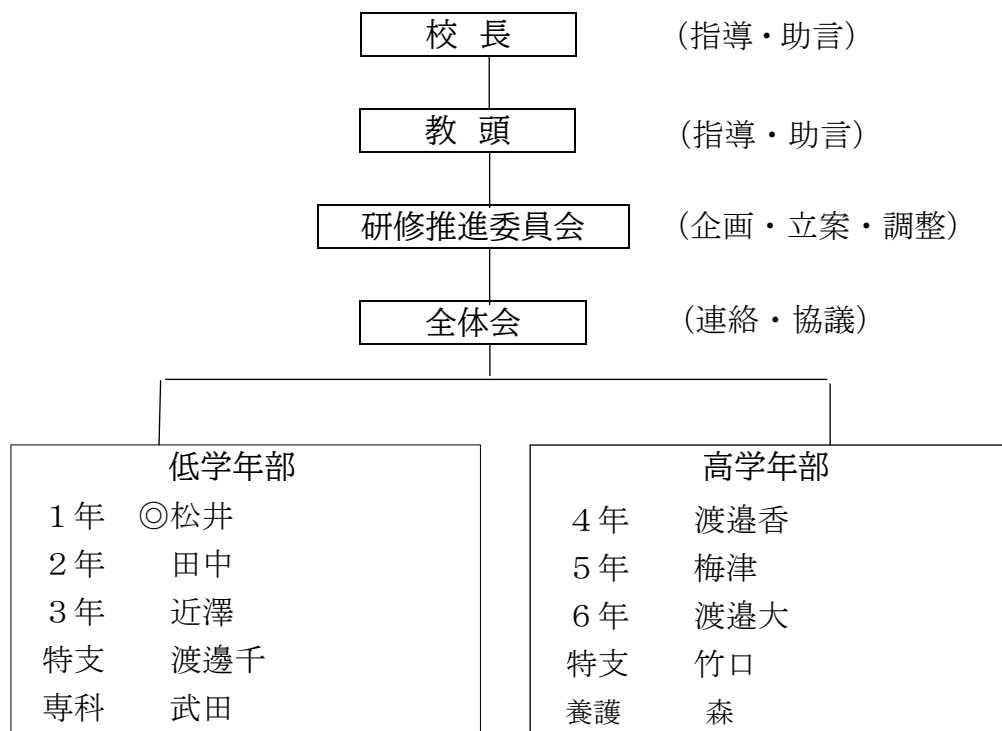
(3) 授業力 UP 週間の設定

2学期に2週間程度、授業力 UP 週間を設定する。互いの授業を見合い意見交換することを通して授業力の向上を目指す。気軽に授業を見に行ける環境づくりや、意見交換が活発になるワークシートの作成など、さらに効果的な取り組みなるように改善していく。

(4) ミニ会議の定期的な開催

サーチ学習が行われる期間、授業を実施した日は、10分間ミニ会議を開催し、その日の学習の振り返りや次の学習の確認を行うこととする。

7 研究組織図



◎研修長

8 研修委員会 担当(提案)

授業研究推進(主)	松井	まなびっこタイム	松井・渡邊大
// (副)	梅津	掲示・環境整備	渡邊大
人権教育推進(主)	竹口	児童アンケート	松井
特別支援教育推進	渡邊千	学習規律	松井
多文化共生教育推進	竹口	教職員研修	松井
総合的な学習	松井	研修だより発行	松井
環境教育	近澤	家庭学習	松井(校長)
図書館教育	渡邊千	補充学習	梅津(教頭)
情報教育	渡邊大 梅津	短歌づくり (森のまつり)	渡邊か 竹口
道徳教育	梅津	読書活動 (辞書斡旋)	渡邊千
外国語教育	渡邊ひ	ICT機器活用	渡邊大
キャリア教育	松井雄	モジュール学習	松井
学習ボランティア	梅津	学調・SC対策	松井・梅津

9 年間研修計画

月	研修内容	サ	ま	れ
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究主題, めざす子ども像など本年度の方向性の検討・決定 ・学年の取組の計画, 年間カリキュラムの作成 ・サーチ学習と学びっこタイム年間計画作成について ・たてわり班の作成 ・思考スキル 	/		○
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の書き方の提案 ・授業研究に向けた指導案検討 ・学力調査, スタディチェックに係る取組 		○	○
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年部授業研究 ・まなびっこタイム ・ベンチマーキング 	○	○	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・れいせいっこタイム ・児童アンケート検討 ・人権レポート研修会 			○
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区研修会 ・2学期サーチ学習の計画の作成 ・人権レポート研修会 ・他校研究会や研修会, 鈴教研への参加 	/	/	/
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・れいせいっこタイム ・授業研究 			○
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・まなびっこタイム 		○	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・まなびっこタイム 	○	○	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの実施 	○		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・れいせいっこタイム ・3 学期サーチ学習の計画作成 			○
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学びっこタイム 	○	○	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果と課題について ・次年度に向けて 	/	/	/

